

# 第 1 章 調査概要

## 1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

## 2. 調査実施内容

### ① 生活系ごみ

- 【実施日】 平成 28 年 2 月 25 日（木）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 北地区（青山 5 丁目）
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
- 【備考】 ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、袋のみでの排出
- 【可燃収集曜日】 月曜・木曜
- 【想定条件】 住居地域
- 【採取量】 203.8kg（集積所 5 か所分）
- 【気温（平均）】 -3.1℃
- 【収集時間】 13 分

### ② 事業系ごみ

- 【実施日】 平成 28 年 2 月 23 日（火）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【想定条件】 任意の搬入車両 1 台を調査
- 【採取量】 211.8kg（塵芥車 1 台積載量の 5 分の 1 程度）
- 【気温（平均）】 1.3℃

## 3. 調査手順

### （1）試料の回収

#### ① 生活系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

#### ② 事業系（可燃）ごみ

中間処理施設へ持ち込まれたごみを施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

### （2）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

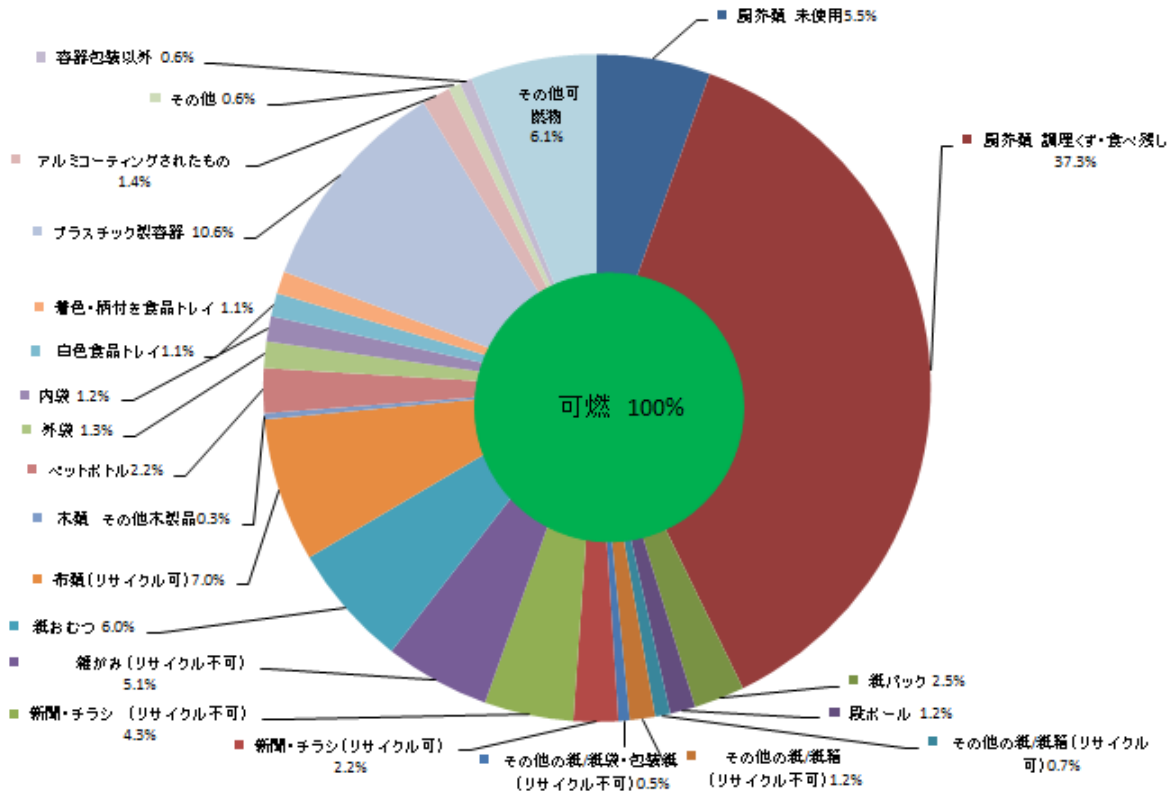
## 第2章 調査結果

### ① 生活系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類（生ごみ）」（42.8%）、「紙類」（23.7%）「プラスチック」（20.1%）の3種であり、全体の約86.6%を占めていた。

個別にみると、厨芥類「調理くず・食べ残し」（37.3%）、プラスチック「プラスチック製容器」（10.6%）の構成割合が高かった。

その他10%以上の分類はなく、布類「（リサイクル可）」（7.0%）、その他可燃物（6.1%）紙おむつ（6.0%）の順である。傾向としては、缶やペットボトル、不燃物の混入がなく、分別意識の高い地域であることが示された。



## ② 事業系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（66.6%）、「プラスチック」（15.2%）の2種であり、全体の約81.8%を占めていた。

個別にみると、紙類「雑がみ（リサイクル不可）」（25.3%）、「新聞・チラシ（リサイクル可）」（15.1%）、「雑がみ（リサイクル可）」（9.8%）、プラスチック「プラスチック製容器」（9.5%）の構成割合が高かった。

傾向としては「雑がみ（リサイクル不可）」の割合が高かった。

